

10 私たちが目指すゴール
の未来の物語

山都町 × SDGs



Sustainable Development Goals

Yamato-cho



熊本県山都町は、2021年に「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定され、有機農業を核としたSDGsの推進に取り組んでいます。



Yamato-cho SDGs

「誰一人取り残さない」の 想いから生まれた 国宝 通潤橋

SDGsの共通テーマは、「誰一人取り残さない (LEAVE NO ONE BEHIND)」。

この言葉を江戸時代後期に体现し、通潤橋という日本最大級の石造りアーチ水路橋をつくったのが、時の惣庄屋・布田保之助です。水不足に悩む白糸台地へ水を送るため、建設された通潤橋。竣工後、白糸台地では米づくりが盛んになり、住民の暮らしは豊かになりました。建設当時、布田保之助が想い描いたであろう、誰もが心豊かに暮らせる町。私たちは通潤橋の姿から、SDGsにつながる想いに触れることができます。



【発行年月】2023年10月 【発行】山都町役場 山の都創造課

〒861-3592 熊本県上益城郡山都町浜町6 TEL 0967-72-1158
<https://www.town.kumamoto-yamato.lg.jp>



蘇陽峡



Yamato-cho SDGs

山都町SDGs2030年基本目標はSDGsにある17の目標をもとに、
「2030年にありたい山都町の姿」について町民同士で意見を出し合い定めた町のゴールです。

この冊子では、10の基本目標ごとに

「こんな山都町の未来だったらいいな！」

という、10の未来の物語を描いています。

ページをめくるたび、わくわくするような未来の物語が登場します。

「2030年がこんな未来だったらいいな…」と想像しながら、

私たちのゴールを目指しましょう！

10の未来の物語の写真に登場する撮影地とモデルは全て町民の皆さまにご協力いただいたものです。

山都町SDGs 2030年基本目標

Goal 1
経済

山都町の魅力を活かしたまちになる

- 1 山都町らしい農業が成長し続けるまちをつくる (P3)
- 2 人・自然・伝統芸能などに魅了され訪れたいまちをつくる (P4)
- 3 受け継がれてきた食文化をつなぎ、循環するまちをつくる (P5)

Goal 2
社会

住み続けられるまちになる

- 4 山都町の魅力を語る子どもたちが育つまちをつくる (P6)
- 5 高齢者が生きがいを持って元気に活躍するまちをつくる (P7)
- 6 地域や集落の住民が安心して住み続けられるまちをつくる (P8)
- 7 多様な個性を認め合い共生のまちをつくる (P9)

Goal 3
環境

資源を大切に活用できるまちになる

- 8 自然エネルギーを活用したエコなまちをつくる (P10)
- 9 ごみのリサイクル利用など資源を大切にすまちをつくる (P11)
- 10 適切な森林の管理・活用により、生命・土・水を守るまちをつくる (P12)



って、なんだろう？

みんなが安心して、地球で暮らし続けられるための目標のことです

SDGs(エスディーゼーズ)とは「Sustainable Development Goals」の略称で、日本語では「持続可能な開発目標」と呼びます。持続可能とは、ずっと続けていける、ということです。SDGsは、私たちみんなが、ひとつしかないこの地球でずっと暮らしていける「持続可能な世界」を実現するために進むべき未来を示したものです。私たちはいま、さまざまな社会の課題とSDGsとのつながりを知り、「持続可能な世界を築くためには、何をしたらいいだろう?」「SDGs達成のために、自分は何ができるだろう?」ということ、一人ひとりがみんなのことを考えて、行動することが大切です。

SDGsには17の目標があります

人権、経済・社会、地球環境、さまざまな分野にまたがった方策・目標が掲げられています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



こんな未来だったら…



2

人・自然・伝統芸能などに魅了され訪れたいくなるまちをつくる

清和文楽(人形浄瑠璃)をはじめ、地域が豊かで平和であるようにと祈り舞う神楽や、大造り物が商店街を練り歩き五穀豊穡を願う八朔祭など、山都町にはさまざまな伝統芸能や祭りがあります。

中でも、熊本県重要無形文化財である清和文楽は、令和4年に人氣漫画「ONE PIECE」を原作とする新作を公演し県内外で大きな話題になりました。公演では、学校等で清和文楽を学んだ地元の子どもたちが出演したことも注目を集めました。

今後、町内の子どもたちが清和文楽や神楽などの伝統芸能に触れる機会がさらに多くなれば、後継者の育成につながります。後継者を増やし、町の伝統芸能を活性化させて町民自らが地域固有の魅力を再認識し、これを守り育てることで、日本人観光客やインバウンドが訪れたいくなるまちをつくりあげていきたいと思います。

私たちができるSDGs

- 山都町の魅力を発信する。
- 清和文楽や神楽といった町の伝統芸能を観る。
- 町のお祭りやイベントに積極的に参加する。
- 清和文楽講座などに参加して、町の伝統芸能を学ぶ。



インバウンド (inbound) とは？

日本語で「外から中へ入ってくる」という意味があり、旅行業界では外国人が訪れてくる旅行のことを指し、日本へのインバウンドを訪日外国人旅行、訪日旅行と言います。外国人旅行者に訪れてもらうための取り組み(インバウンド対策)は、今後重要だと言われています。



こんな未来だったら…



1

山都町らしい農業が成長し続けるまちをつくる

山都町では、50年以上前から、冷涼な気候と朝晩の寒暖差、清らかな水とミネラル豊富な土壌を活かした、環境にやさしい農業が営まれています。有機JAS認証事業者の数は、なんと全国一位です。しかし近年は、農家の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加や有害鳥獣被害など、山都町の農家は多くの課題に頭を悩ませています。

町では、農家になりたい人を応援するための研修制度を充実させ、アイガモ農法などの有機米の生産や有機JAS認証等のサポートに力を入れています。化学肥料や農薬をできる限り使わない農業を行ってきたことで、これまで農地や里山の豊かな生態系が守られてきました。これからも環境に配慮した農業を続けていくことで、美しい自然環境を次世代へつないでいきましょう。

私たちができるSDGs

- 環境にやさしい農業に取り組む。
- 農業体験や井手さらい(用水路の掃除)、除草活動といった農地の保全活動に参加する。
- 地元産の農産物を積極的に購入・消費する。



有機JAS認証とは？

「有機」「オーガニック」と農作物に表示するには「有機JASマーク」が必要です。2~3年以上農業や化学肥料などを使用せず、栽培の記録など厳しい検査を経て「有機JAS認証」を取得できます。



4

山都町の魅力を語る子どもたちが育つまちをつくる



こんな未来だったら…

矢部高校に、
全国から入学希望者が
集まったらいいな!

町内唯一の県立高校である矢部高等学校には、「普通科」をはじめ農業を通して命の大切さを学ぶ「食農科学科」、新しい林業を支える人材を育てる「林業科学科」があります。町の自然環境を活かしたユニークな学習や特色のある取り組みが全国から注目され、県外からも入学できる「地域みらい留学」を活用して、毎年多くの入学を受け入れています。

また、国宝・通潤橋の完成に力を尽くした布田保之助翁の精神を受け継いだ「通潤魂」という校訓があり、郷土愛を育む土台となっています。

学校をはじめ、地域や家庭で町の文化に触れることで、町の魅力を語る心豊かな子どもたちが育っていけば、町に愛着を持ち続ける人たちが今よりもっと多くなることでしょう。

私たちができるSDGs

- 地元の子どもたちに町の文化や魅力昔ながらの行事を伝える。
- 山都町の歴史を調べてみる。



通潤魂(つうじゅんこん)とは？

矢部高校が校訓として掲げる「豊かな心、勤労の喜び、創造の喜び、不屈の意志」を表す通潤魂。令和5年9月25日に国宝に指定された通潤橋完成までの道のりを表しているものです。社会に出てもこの通潤魂を大切にしている卒業生が多数います。



3

受け継がれてきた食文化をつなぎ、
循環するまちをつくる



こんな未来だったら…

給食は、山都町産の
お米や野菜だったらいいな!

例えば…

郷土料理だご汁
山都町産有機米
山都町産野菜のサラダ
郷土料理
おしよせのコロッケ
山都町産果物

巻き柿、煮しめ、おしよせ(かすよせ)、だご汁、おまんじゅう…。これらは山都町で親しまれている郷土料理の名前です。しかし最近では、郷土料理に触れる機会が減り、食文化を残していくことが課題となっています。町内では、給食に郷土料理が出されたり、有志によって郷土料理のレシピ本が作成されたりと、さまざまな取り組みが行われています。また、町内の道の駅では郷土料理を食べることができ、観光客にも大人気です。

令和3年には、学校給食のお米に町産有機米の使用が始まりました。将来、学校給食で使われる食材の多くが山都町産になれば、給食を通して子どもたちに地元食材のおいしさや農業の大切さが伝わることでしょう。地域でとれた食材、その食材を使った料理(山都町の食文化)をこれから先もずっと受け継いでいきたいと思います。

私たちができるSDGs

- 食卓には地元食材を使った料理を並べる。
- 郷土料理に挑戦する。
- 郷土料理教室に参加する。



循環とは？

ひとまわりして、元へ戻すことを繰り返すこと。この目標では、地元でとれた食材を地元で消費、販売するため、町内での地産地消を助け、地元産の食材を無駄なく使いながら郷土料理を受け継いでいくことを指します。



6

地域や集落の住民が
安心して住み続けられるまちをつくる



こんな未来だったら…

安心できる住環境と
地域のつながりの中で
住み続けられたらいいな!

普段利用している道や橋、見慣れた田畑の風景は、代々その地域の住民によって大切に管理され、守られてきたものです。しかし今では、高齢化や住民が町を離れてしまうことによる人手不足もあり、集落自体の維持管理が難しくなっています。

美しい棚田景観で知られる白糸台地では、地元農家を中心となった「山都町棚田復興プロジェクト」の活動で、ボランティアの協力を得ながら棚田の維持に努めています。

また、町では「山都町空き家バンク制度」を設け、空き家の活用と地域の活性化を目指しています。住宅のバリアフリー化や空き家の改修費には、町の補助制度もあります。移住者にとって安心できる住まいがあることは、定住にもつながります。移住者と地域住民とが助け合い、力を合わせて集落を管理する、そんな風景があたり前なま

ちを目指していきましょう。

私たちができるSDGs

- 空き家バンクへ情報を提供する。
- 空き家の活用について、みんなで考えてみる。
- 集落の維持管理作業や自主防災組織へ参加する。



山都町空き家バンク制度とは？

町内に存在する賃貸・売却が可能な空き家を所有者が登録し、その物件を移住希望者や住居を探している方へ情報提供する仕組み。町は空き家所有者と利用したい人とをマッチング（お互いの条件が合うかを確認するなど）して、空き家の活用や移住定住の促進を図っています。



5

高齢者が生きがいを持って
元気に活躍するまちをつくる



こんな未来だったら…

いくつになっても
友達と笑って
楽しく過ごせたらいいな!

県内でも高齢化率の高い山都町。町内のシニアクラブには3千人を超える会員がいて、勉強会や運動に励んでいます。草刈りなどをお願いするシルバー人材は、町内の頼りになる働き手として活躍中です。また、シニア世代ではグラウンドゴルフが大人気！山都町運動公園には芝生広場が完成し、これまでに以上に生き生きとプレーする姿が見られます。その他、お年寄りの健康づくりや社会参加を促す「幸齢者はびねすポイント事業」という町独自の取り組みも好評です。

シニアクラブの会員向けに実施したSDGs講座で「あなたの18番目の目標は？」と尋ねると、「毎日歩く、運動をする」「土づくり、野菜づくり」「地域の輪を大事にする」といった声が集まりました。これまでやってきたことを継続することこそが、いつまでも元気で活躍し続ける秘訣かもしれません。

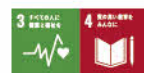
私たちができるSDGs

- 外へ出かけて体を動かす。
- ラジオ体操をする。
- 地域の人と挨拶やおしゃべりをする。



幸齢者（こうれいしゃ）はびねすポイントとは？

健康への取り組みの習慣化などを目的に、健康診断の受診や地域サロンへの参加など自らの健康づくりや介護予防活動に対して、評価ポイントをもってためる制度。満65歳以上の町民が対象で、500ポイントがたまったら、500円分の商品券と交換することができます。



こんな未来だったら…

8

自然エネルギーを活用したエコなまちをつくる



清和高原(井無田地区)

この星空の美しさと環境を
いつまでも残せたらいいな!

山都町には星空を守る条例があります。町の「子ども議会」において、星が大好きな地元中学生によって光害(ひかりがい)の防止を求めた提案が出され、令和2年に「山都町星空環境保全条例」が制定されました。美しい星空を未来へ残す誓いです。

町では、太陽光発電や生ごみ処理機、薪ストーブなどの設置に対する補助を行うなど、環境にやさしいまちづくりを進めています。令和4年に完成した町営住宅「おおるりメゾンド浜町」は、環境に配慮したZEH(ゼッチ)型集合住宅として建てられました。また、公用車のEV(電気自動車)化や町有施設への木質バイオマスボイラーの導入なども検討しています。自然エネルギーの活用が進めば、CO₂や光化学スモッグの発生が減り、大気汚染や地球温暖化の対策にもつながります。今夜は空を見上げて、山都町の星の美しさを感じてみましょう。

私たちができるSDGs

- 使っていない部屋はこまめに消灯する。
- 月に1回、家庭の電気を消してライトダウンを楽しんでみる。
- 町産の木材を生活に有効活用する。



ZEH(ゼッチ)とは?

Net Zero Energy House(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の略で、太陽光発電などで作られたエネルギー(創エネ)量から、家庭で使ったエネルギー量を引くとゼロ、またはゼロ以下になる住宅のこと。環境にやさしく光熱費を大幅に下げられるメリットがあります。



こんな未来だったら…

7

多様な個性を認め合い共生のまちをつくる



誰もが共に
心地よく暮らせたらいいな!

一人ひとりの個性を理解し、お互いを認め合うことは、とても大切なことです。以前から、町内では、障がいのある方を雇用したり、イベント等へ一緒に参加するなど共生や交流の形がとられてきました。外国籍の移住者が地元消防団に入団したり、福祉事業所で職員として働くケースもあります。また、「山都町子育て支援施設」ではさまざまな育児相談にも対応しています。

子育て世代やお年寄り、障がいのある方、外国人などがもっと行動しやすくなる環境整備を進め、性別に関係なく活躍することがあたり前の社会をつくる、授乳室やおむつ替えスペース、誰もが理解しやすい表記の案内板を増やしたりすることは、誰にとってもやさしいまちづくりの一步になります。

私たちができるSDGs

- さまざまな個性や違いを理解する。
- 家庭内での家事や育児を分担する。
- 人権教育、啓発活動へ積極的に参加する。



多様な個性とは?

個人や集団の間に存在する、さまざまな違いのこと。高齢者や障がいを持つ方など社会的に弱い立場の方、国籍、年齢、性別の違いなど、一人ひとりの個性を尊重してお互いを補い合うことが、誰もが安心して暮らせる社会や地域の実現につながります。



10

適切な森林の管理・活用により、
生命・土・水を守るまちをつくる

百年後も、このままの風景が
ここにありますように。



虎御前(小峰地区)

こんな未来だったら…

山都町は、山林面積が72%を占める中山間農村地域です。宮崎県の県境には標高1700m級の山々が連なつた九州脊梁山地があり、極めて高い保水力を持つブナの原生林が、広がっています。この九州脊梁山地は、たくさんの雨水を蓄え、九州の二級河川の源泉となり町の多様な植物や生き物が生息する貴重な生態系を育んでいます。

町では、豊かな森林を維持するため、造林や林業の担い手育成の補助をはじめ、有害鳥獣被害対策などを行なっています。大人から子どもへ森林の大切さを伝え、子どもたちが森の働きや恵みについて学んだりする機会も必要です。

山都町の子どもたちみんなが町に木を植え、保全・管理していくことで、やがて大きな森となり、未来の子どもたちが健やかに過ごせる憩いの場になっているとでしよう。

私たちができるSDGs

- 休日に、子どもと町内の山登りを楽しむ。
- 新築や改築をする時は、町産の木を使う。
- 森林ボランティア活動へ参加する。
- 所有森林を確認し、適正な管理を行う。



森林の適切な管理・活用とは？

森林の伐採、植栽、育林などによる、適切な森林整備を進め、森林のCO2吸収機能を高めたり、木材の活用を図ったりすること。放置山林の整備は、土砂崩れなどの災害防止や水源、生物多様性などの保全にもつながります。



9

ごみのリサイクル利用など
資源を大切に作るまちをつくる

こんな未来だったら…

ほとんどリサイクルできて
1ヶ月に出るゴミは
このくらいだったらいいな！



毎日の暮らしの中で、どうしても出てしまうごみ。燃えるごみの約40%は生ごみで、その約80%が水分と言われています。水分が多いとその分ごみ焼却に伴う燃料やCO2排出量が多くなるため、町では生ごみの水切りを呼びかけています。また、家庭用の生ごみ処理機購入に対する補助制度を充実させるとともに、コンポストによる生ごみの堆肥化や、白色トレイの回収箱を役場に設置し、プラスチックのリサイクルを推進することで、ごみの削減に取り組んでいます。

その他、山都町観光文化交流館「やまと文化の森」では、定期的にフリーマーケットを開催し、ごみを出さないリサイクルの向上や付加価値をつけたアップサイクルに取り組んでいます。「捨つとでけん！もったいなか！」を、町民の合言葉として、これからも資源を大切にしながら、ごみの削減に取り組んでいきたいと思います。

私たちができるSDGs

- 生ごみの処分にはごみ袋ではなく、コンポストを使う。
- リユースやアップサイクルを楽しむ。
- 壊れても修理して大切に使い続ける。



アップサイクルとは？

一度資源に戻してそこから新たなものを作り出す「リサイクル」とは異なり、アップサイクルは、捨てられるはずの製品はそのままに、手を加えて価値をつけ、新しい製品へと生まれ変わらせること。例えば、着物をスカートにする、古いタイヤを花壇の柵にすることなどがあります。



矢部郷自然観察会

故郷の豊かな自然を大切にしたいという願いから、「自然を知り、自然に学び、かけがえない自然を未来に残す」ことを目的として昭和61年に発足しました。特に子どもたちの環境教育に力を入れ、地域の方々と共に活動を続けています。

通潤橋周辺を常設の自然観察路として、四季折々の自然の変化や野生の生き物たちの姿に目を向けています。また、「棚田の生き物たち」や「通潤用水の生き物たち」、「森の忍者・ムササビ」観察会などのテーマ毎の観察会は恒例となっています。さらに、山都町には国指定特別天然記念物のニホンカモシカや天然記念物のゴイシツバメシジミやヤマネなどの希少な野生動物が生息しており、そのような生き物たちの調査にも取り組んでいます。



郷土料理名人育成会

山都町と食生活改善推進委員により、地元の中学校で調理実習を行うなど伝承料理の調理を体験させる取り組みを行っています。

町の有志で結成した「郷土料理名人育成会」では、かすよせをはじめ、町の郷土料理のレシピ本なども作成しました。



Present Tree in くまもと山都

認定NPO法人環境リレーションズ研究所が、生物の多様性保護と生産者支援を目的に取り組む事業で令和2年にスタートしました。

リピーターとして参加される方も大勢いて、全国から集まった参加者とともに町内の観光も楽しみながら、山都町の美しい自然の中で広葉樹数千本が植えられています。



キリトリセン

POST CARD

今日からはじめる！
わたし×SDGs

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

このハガキに、「今日からこれをやります！」、「こんな未来の物語を描きたい！」など、あなたが目指したいゴールや、未来の物語を自由に書いてみてください！キリトリセンで切り離したら、壁に貼ったり、飾ったり、あの人やこの人に送ったりして、楽しみながら私たちができるSDGsへのアクションを起こしましょう！

はじまっています！ 山都町×SDGs

10の未来の物語はいかがでしたか？

「こんな未来だったらいいな」と感じたら、次は自分にできるSDGsを考えてみましょう！山都町では、持続可能な未来に向けてたくさんの取り組みが行われています。ここでは、その一部を紹介します。町内の取り組みを知ることもSDGsのアクションにつながりますよ！

町内小中学校

総合的な学習を行う「山都学(ふるさと学)」や、山都町の有機農業を学ぶ食育授業をはじめ、有機米や有機野菜の学校給食等を通してSDGs学習に取り組んでいます。令和4年度は、有機農業に欠かせない土づくりや菌について講話を実施しました。また、山都町の有機栽培の米を使用した「味噌づくりワークショップ」や、普段何気なく食べている発酵食品の「味噌」等について学習しています。



熊本県立矢部高等学校

町内唯一の県立高等学校では、「食農科学科」「林業科学科」「普通科」を有し、ドローンを活用した先進的な実習や農産物の生産から販売、企業と連携した加工食品の開発等に取り組んでいます。日本の中山間地を支える人材育成を担っており、「地域みらい留学」を活用して全国から多くの入学を受け入れています。また、特色ある部活動として二輪車競技部があり、運転技術の向上を図り、交通安全や交通マナーの啓発を校内外に発信しています。



山都町シニアクラブ連合会

山都町シニアクラブ連合会は、令和5年度現在で約3千名を超える会員がいます。日頃から農作業に従事する方も多く、高齢者の生きがいづくり、身体機能の維持、認知機能の低下予防を目的として、「えごま」や「おたっしゃ野菜」の栽培などを行っています。令和5年度からは、循環型の取り組みを目指し、町が行う「生ごみ堆肥化事業」で出来た堆肥を「えごま」などの栽培に活用しています。



山都町有機農業協議会

平成15年、有機農業者や有機グループ、また農薬不使用、減農薬など環境保全型の農業者が一体となり有機農業推進の実現のために設立されました。生産者間の交流を図りながら、有機農業の経営の確立を目指し有機農法の普及、食に携わる人や消費者との距離を近づけることを目標に活動しています。有機農業の栽培技術の勉強会をはじめ、子どもたちの農作業体験、無農薬米の小中学校への贈呈、食のPRイベントの開催など、特色ある取り組みを行っています。



特定非営利活動法人ORGANIC SMILE (有機の学校)

高品質・多収穫を実現する「BLOF理論」を基礎理論として、年間120時間、座学と実践で学ぶ民営の学校です。農家として独立できる力をつけるために「農業経営」も学ぶことができます。就農時の農地や住居のあっせん、販路についてもサポートし、新規就農者ががっちり支援する仕組みが作られています。

